

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072900378		
法人名	医療法人 寿栄会		
事業所名	グループホーム 笑顔		
所在地	福岡県小郡市三沢528-3		
自己評価作成日	平成29年9月15日	評価結果確定日	平成29年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成29年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

笑顔では目標を「入居者さまがのんびりと楽しく過ごしていただけるように、人、物などのすべての環境を整える。入居者様に寄り添い、共感し入居者様それぞれにあわせた介護」をこころがけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム笑顔」は同一敷地内の病院を母体に持つ2ユニット事業所であり、開設から12年を越えて運営されている。母体病院は精神科が専門であり認知症にも強く、内科もあるため、その医療体制には家族も安心されている。敷地内にあることから入院が必要な際にも環境を変える事無く、短期間での対応がされており、安定した健康状態が保たれている。施設長は医師で認知症への見地も深いため、市などの要請で認知症に関する講演をすることも多い。施設名にもある笑顔を大事にしており、レクなどであふれる笑い声を聞きつけて立ち寄る方もいるくらいである。今は「笑いヨガ」に取り組んでおり、新たな刺激のきっかけにもなっている。入居者も職員も自然な笑顔で明るい雰囲気を作っており、今後の発展が益々期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各人の名札の裏に、理念、目標を入れ毎朝朝礼時に唱和し共有を図っている。唱和することで常に振り返ることができ、自己を省みる機会となっている	開設時からの理念を以前見直して、「地域と結びついた～」の一文を加えた。理念とともに、目標として3つの行動目標を定めており、掲示と保持によって周知を進めている。これらを元に年間目標、個別目標も定めており、毎年皆で話し合って作成し、半年での振り返り、評価も行っている。入社年度での差はあるが、キャリアビジョンと合わせての共有に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(初午祭、夏祭り等)入居者様と参加し、寿栄会の夏祭りや地域感謝祭には地域の方々をお呼びし交流している	地域ボランティアとして、和太鼓や絵手紙作成に來てもらう。中学校からの職場体験受け入れもある。法人として町内会にも入っており、区長から案内も頂いて敬老会などの行事に参加し、お誘いを頂くことも多い。施設長が中心になって外部への認知症に関しての情報発信も行っている。	地域交流が少ないということはないが、レベルの低下に伴って、外出しての交流が難しくなってきたので、幼保園や学校など新しい交流の輪が広がるような検討がなされることにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポート研修参加や認知症相談窓口を設けている。老人会で認知症にたいする勉強会等に参加し、施設長が講演も行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くの方が参加しやすいように、日程調整や日程を考慮し事業所の行事、や運営状況報告、地域の行事、情報等活発な意見交換をおこなっている	2ヶ月ごとに決まった曜日で定期開催しており、区長、民生委員、老人会、市の介護保険課長が外部から参加し、家族代表、入居者代表とともに話し合う。家族、入居者代表は年によって代わってもらい、家族会時に議事報告も行っている。周囲の防犯カメラの設置に関して会議で図り、市のアドバイスから補助金も頂いて設置に至った。	会議の内容を共有し、取り組みを知っていただく方法として、議事録を玄関や相談室で閲覧用に設置したり、郵送報告などで見えるようにさせてはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小都市の介護保険研修に参加している。市の職員さんに運営推進会議に参加していただき、サービスに関する問題などについて相談している	年に2回程度開催される、市主催の研修には毎回参加しており、その際に質問なども出来る。毎回の運営推進会議にも市の職員に参加してもらっているため、そこでの質問やアドバイスを頂くことも多い。法人として市との関わりも深く、相互の協力体制がとられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会を通じて、身体拘束に関する認識を深め、状況に応じては家族に相談をすることも。また併設病院の売店にひとり買い物に行く入居者様も居られる、日中の施錠はしていないので、自由に出入りができている	日中は施錠せず、玄関も開放している。敷地も広いので、出られたがる方にも職員が付き添って気の済むように出してもらっている。状況は常時把握するようにしており、知らないうちに出ることは無いようにしている。拘束をしない方針で車いすベルトや四点柵を使うこともない。権利擁護や虐待防止の中での意識づけは行っている。	身体拘束やスピーチロックに関しての定期的な研修の記録がなかったため、年間での研修計画を画面に残してはどうだろうか。もし受けていないようであれば、定期的な受講や内部研修での実施がなされることが望まれる。

H29自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止フォーラム等に参加し、スタッフ間でも勉強会を行い、入居者様同士のトラブルに発展しないように努めている。またスタッフ間でも情報共有し理解を深め権利、侵害等無いように努めている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時、家族への制度の説明をする。相談があった阿合、そのつど対応している、スタッフはいつでも対応できる姿勢でいる	玄関先に権利擁護に関する啓発ポスターを掲示しており、毎年定期的な研修も行っている。今のところ制度利用されている方はいないが、以前いらしたこともあり、必要時にも病院の地域連携室と相談することで対応体制も持たれている。パンフレットも準備しており、渡すこともできる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い不安や疑問点についてはより詳細に説明をして理解していただいている。その後の疑問や質問についてはその都度説明をしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内の相談窓口を明確にしており外部での相談窓口ポスターも掲示している。家族の訪問時はコミュニケーションを図り、意見をひきだしている。家族会を定期的開催し意見や要望を聴いている	意見箱はあるが、直接意見をもらうことが多く、使われたことはなかった。毎月の支払いを原則現金払いにすることで、面会機会をもってもらっている。家族会も年に4回しており、半数程度が参加されている。頂いた意見から名札の着用の徹底につなげたこともある。毎月行事報告と、個別写真を載せた「笑顔通信」を発行し、状況を伝えている。法人発信のアンケートも毎年しており、集計結果の報告もしている。	現在、通信担当者によるお便り作成をしているが、個別担当によるコメントもつけることで具体的な報告にも役立ててはどうだろうか。また、意見箱を活用する手段として、事前に記入用紙を郵送配布したり、意見箱の設置場所を検討するなどされても良いのではないかと。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営について困難が生じた場合、その都度意見や提案を聴く機会を設けている、それは寿栄会の役員に述べる機会を設け反映されている	日々の情報共有は毎朝の申し送りで行っており、何かあった際には個別に意見を聞く形で対応している。プランの見直しなどのタイミングでカンファレンスを開き、その時の出勤者と議事の共有によって全員で情報共有している。年2回の個別面談もあり、その際に個別の要望を挙げることもできる。	職員一人一人が自発的に考えて、運営に携わっていく意識を高めていくために、定期的なミーティングや会議の機会をもって、運営改善に関しての意見を募ってはどうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は個人目標をもとに個人面談を行い、人事考課を本部に提出し、昇進、昇給等に反映している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層が勤務している、職員募集にも年齢、性別を理由に採用対象から外すことはしていない。人間性重視の採用をし、無資格者には資格修得を目指し休日の調整や先輩スタッフからの指導、教育などホーム全体で協力している。資格修得後は給与に反映され、意欲をもって働けるように配慮されている	職員は全員が正社員であり、男性が2名、全体の年代層も20代から60歳代と幅広い。お互いに意見も言いやすく、時にはユニット間での異動も行うことで、全体の情報が把握できるようにしている。研修案内もあり、自分からの希望や指示による参加などでスキルアップに努めている。休憩時間や休憩場所も分けており、メリハリをもった勤務環境がとられている。	

H29自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が小郡企業内人権同和問題研修推進委員会のメンバーであり、年に2から3回の研修に参加している。入職時に理念、人権啓発、尊厳、人間尊重の意識付けを行い、個人情報、守秘義務の遵守について説明を行うなどの職員への人権教育をしている	市が積極的に人権教育を進めていることもあり、数年前から管理者が委員に選出されている。管理者が参加した研修内容は、その都度資料回覧と伝達報告も行っている。母体病院でも定期的な人権教育をしており、職員が参加することもある。法人として積極的な活動に取り組んでいる。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体に人材育成室があり、レベルに応じた研修へ参加し学んでいる。介護支援専門員、介護福祉士、認知症実務者研修等希望者には研修を受ける機会もある。研修の情報提供もしている。市や医師会の介護研修や併設病院の研修にも参加している	
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小郡キャラバン隊研修や小郡三井地区介護保険研修会等へ参加し、他の施設や同業者と情報交換などの交流をしている	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式のアセスメントや日々の生活の関わりの中で、会話や表情から入居者様の希望や意向の把握に努め、主治医、家族にも相談している。意思疎通の困難な入居者様には、家族、や関係者からこれまでの暮らしや生活歴等の情報を得るようにしている	
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望者・ご家族様がホーム見学時、一緒にお茶を飲みながらレクリエーションなど参加していただき雰囲気を感じてもらう。入居者様が一日でも早く馴染んでいただくよう、スタッフは他の入居者様も含め馴染みの関係を築くよう努める。また行動を起こす前に家族とスタッフが話し合い家族の意向に近づく関係を築いている	
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者や家族の意向を聴き、計画作成担当者を中心にスタッフで話し合い介護計画を作成している。家族の意見も反映した計画であり、きちんと説明を行っている	
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様から生活歴を伺い、特技、趣味などを共に行い入居者さまからアドバイスを受ける事もある。時に入居者様から言葉をかけてもらい元気をいただくこともある	
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で家族に近況報告をしている。入居者様には第2の家庭と考えていただきゆったりと過ごしていただくように生活支援の共有を行っている。また無理の無いような外出・外泊も勧めている	

H29自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の夏祭り、敬老会などの催しに参加したり、外出やレクリエーション等で馴染みの場所へ行く事もある。面会時間も制限なく、入居者様は地域や家族の面会を楽しんでいる	遠方の方でも2ヶ月に1回は面会があり、家族以外にも地域の知人や友人などが来ることも多く、関係も多岐にわたる。元々の習い事を継続している方もおり、ドライフラワー作りに毎月2回行っている。自宅に立ち寄ったり、家族の支援で県外に行くこともあった。馴染みの美容室に継続して通う支援も行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に孤立しないように、ホールで活動したり、話題の提供で会話を楽しみ仲間作りの支援をしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設病院や協力病院に入院した入居者様には面会をしたり家族に状況を聞き、必要なフォローをする。家族が不安を抱えている場合はよく話を聞き安心されるような言葉かけをして信頼関係を築いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントや日々の生活の関わりの中で入居者様の会話、表情から要望、希望を把握できるよう努めている。生活歴や終末期をどのように過ごすか聴いている。意思疎通の困難な入居者様については、家族、関係者から情報を得ている	入所時に管理者とケアマネが面談して基本情報を収集している。介護更新時には改めて再アセスメントを行い、課題分析もしている。センター方式の一部活用をしたこともあり、今後も改めて必要な方に対しての利用を検討している。思いや意向の把握にはプラン見直し時などに家族とも話し合っており組んでいる。	センター方式の一部利用を再検討しているが、必要な見直しや情報の刷新を行い、本人本位のアセスメントや意向の把握につながっていくことが期待される。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や友人、病院などから生活歴、これまでのサービス利用の情報を得て、施設でのサービスに活用している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を記録に記載し、一人、ひとりの状態の把握と継続介護に生かしている、また記載することで、新たな発見や心身の状態を把握することができる		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人や家族の意向を聴き、計画作成担当者を中心にスタッフで話し合い、介護計画を作成し家族にも説明をして協力を得ている	入居者ごとの担当制にしており、3ヶ月のモニタリングに必要な情報の報告をケアマネと担当者として行っている。プラン見直し時には担当者会議を開催し、職員のほか家族からも参加や意見照会を頂いている。プランを見ながら記録を録るようになり、職員にもプラン内容の周知を進めている。	担当者会議開催時に家族が参加できない際も意見を聞き取っているため、議事録内にも、照会日、名前、内容などを記録して残すようにしてはどうだろうか。医師など他職種からの意見やアドバイスなども議事録に追記する形で反映し、チームケアに繋がられることにも期待したい。

H29自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。状態が変化した場合は、家族や関係者間で話し合いを行い現状に即した新たな計画を作成している。個人日誌に気づきや工夫を記載し伝達、共有、評価、見直しに生かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に応じて、病院受診時の付き添いや入居者様のその時々希望や要望に応じて、美容院やショッピングなどの外出への支援も行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1度、運営推進会議を市の職員さん、区長、老人会長、民生委員の方々に協力を得て行っている。地域の方々からの情報交換で花見に行ったり祭りに参加するなどの活動をしている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への継続的な受診を重視しているが、家族は併設病院へのかかりつけ医の変更を希望する事が多い。家族同伴の受診も支援している。看護師も常勤し入居者様の、健康管理とグループホームへの往診時適切に診療が受けられるように支援している	母体が病院で認知症対応や内科もあるため、殆どが内部で完結できることもあり、入居時にかかりつけ医を変えられる方も多い。病院が敷地内にあることで定期受診は歩いて通院するが、緊急時には訪問診療もできる。施設長代行も看護師であり、健康管理も日々なされている。家族とも都度連絡を取り合って医療情報も共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わり、健康管理での気づきを併設病院の外来看護師へ報告し内科担当医師へ判断をおおぐ。早期発見早期治療に結び付けている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院へ外来受診しているので入院も可能である。常日頃からグループホーム、外来、病棟とも情報交換と情報の共有に努めている。他病院への入院時も家族の不安や愚痴など聞いたり、面会をしたりしている。医療連携室とも情報共有している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合についての対応を説明している。家族の意思も確認している。対応できる限りで看ているが医療が必要と判断した場合は家族、主治医、看護師が話し合い、家族が納得、理解されるまで何回も話しをして、家族が希望する病院へ入院となるように支援している	入居時に事業所方針の説明をしており、その時点での同意も頂いている。可能な限りの支援を行うが、原則的に看取りをしない方針で、重度化の際には医師の立会いの下改めて話しあい、常時医療が必要な際にはしかるべき施設や病院を紹介している。夜間や緊急時の対応も可能で、医療に関する勉強会も定期的に行っている。	

H29自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って、職員として入職した時、または必要に応じ勉強会を開催している。併設病院での研修(AEDの使用方法、救急蘇生法)に参加している		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	初期消火、避難誘導、通報訓練など年に3から4回行い消防署の立会いのもと指導を受けている。併設病院の多目的ホールが市の福祉避難所に指定されている為、そこまでの避難訓練も行っている。年末には地域消防団とも交流し巡回等もお願いしている	系列事業所全体で行う訓練と、事業所単体で行う訓練があり、年に3、4回の訓練の内、2回程度は消防署にも立ち会ってもらっている。最近自動通報装置も設置し、災害時の通報がスムーズになった。地域の方にも訓練参加してもらったこともある。全体での備蓄物も確保しており、全員で3日分程度を備えている。地形上災害にも強い地域である。	災害時に備え、地域との協力体制に関する協議をしており、合同訓練や非常時の連絡などで体制が作られていく事にも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に尊厳ある生活ができるように支援する事を明記している。入居者の誇りやプライバシーを損ねる事の無いように留意している。夜間のみ居室で使用しているポータブルトイレは日中は居室には置かないよう配慮している。個人記録は事務所で記載し鍵のかけ保管管理している	言葉遣いには特に気を配っており、長い付き合いになっても馴れ馴れしい言葉にならないよう、入居者を敬うことに特に気を付けている。病院が主催する接遇研修が年2回あり、外部講師を招いて行われている。参加できなかった職員にもビデオ学習で必ず全員が受講するようにしている。写真の利用に関しても写真掲載同意書として事前同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定期的な食事会や催し、おやつ時は入居者さまの好みに合わせた希望の献立を提供している。昼食はスタッフも入居者と一緒に食べ和やかな雰囲気と一方では会話も弾み楽しく食事時間を過ごしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床時間や食事、入浴に時間の制限は無い、その方のペースを大切に、何事も強制しない支援をしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の生活歴からあるいは家族から聞き好みの服を着ていただいたり、化粧をしませんかと声かけをするなどの支援も行っている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度、入居者様の希望を聞いた献立を立て、スタッフが食材を購入し調理をする。入居者様方がもやしの根とりや食器洗いや、おやつ作りなどスタッフと一緒に、スタッフも入居者様と同じものを同じテーブルでいただき会話も弾み楽しいひと時をすごしている	職員も同じ時間に同じものを一緒に食事している。普段の献立は本部の管理栄養士が管理し、食材も調達しており、事業所内で職員が調理をしている。手伝える方には手伝ってもらい、月に一度の希望献立日にはお刺身など要望のあるものを食材購入から一緒にしている。以前は調理レクやおやつ作りなどもされていた。外食レクも全体で年に数回企画している。	

H29自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に併設病院の管理栄養士がカロリーを計算し献立を立てている。入居者さまの状態に応じて刻み食、ペースト食を作り対応している。毎日食事、水分摂取量をチェックし記録している。必要エネルギー量の少ない方には家族と相談して栄養サポート食なども使用している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけを行い、歯磨き実施、入居者様の状態に応じ助助している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様、その方の排泄パターンにあわせ誘導を行っている。個人の尿量に応じ紙パンツ、尿鳥パット、ナプキンなど選択し使用、時に評価もしている	各ユニットごとに1日1枚のシートで、全員分の排泄タイミングや排泄状況をチェックしている。各担当者からプラン見直し時などに意見や提案をあげて、状況を共有することもある。それぞれの熱計表もあり、排泄チェックシートから転載して便秘の日数なども把握している。	排泄チェックシートのマークが、現状の方式だと、パット内失禁と汚染とトイレ排泄の種別がわからない。パット内の汚染の有無と、トイレ排泄の成功時間などが具体的に分かるようにすることで、排泄の自立支援に向けた取り組みにつながることに期待したい。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響など理解し、便秘予防で適度な運動、十分な水分補給(時には個人の好まれる飲み物などの提供)、腹部マッサージなど行っている個人に応じた緩下剤も医師の指示のもと使用している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に週3回としているが、毎日でも可能である。入浴時間などの制限などもしていない。入浴の拒否のある方は無理の無いように声をかけ気分を変えて入浴していただいている	浴室はユニット共通の造りで、三方向介助できる位置に浴槽が配置され介助もしやすい。洗髪料も希望があれば持ち込め、普段は事業所で準備している。普段は昼から夕方までの対応だが、17時位の遅めの時間にすることもある。皮膚観察の場としても役立てており、適宜報告もしている。拒まれる方にも無理強いせず、担当を変えたり、声掛けを変えたり、うまくいった事例を共有して対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分や睡眠が取れるように、日中は適度な運動や散歩。外気浴、レクリエーション等を日替わりで行っている。居室の温度調整や個人に合った寝具も家族に相談をし揃えていただく事もある		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方、薬の効果、副作用、飲み合わせなどの勉強会を開いている。処方の変更は体温表に記載し、全員が把握できるように申し送る。大きな錠剤等は粉状にして飲み込みやすくし、服用後口腔の確認を行っている。また異常の早期発見目的もあり、毎朝バイタルサインのチェックもしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意な事、趣味など把握し、食事作り、後片付け、いけばな、草取り、乾いた洗濯物の片付けなど会話も楽しみながら気分転換をしながら行っている		

H29自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設病院のグラウンドが隣接しているので日常的にそこまで散歩をしている。歩行の入居者様が車椅子の入居者様を押し会話を楽しみながら散歩をしたり、病院の売店に出かけたり、月に1回の外出レクやお楽しみ昼食会を楽しまれている	母体病院と隣接された広い敷地内にあることで、安全に散歩を楽しむことができる。敷地内の売店には自分のタイミングで自由に行き来する方もおり、気軽に外周出来る。外出行事の機会も多く、バスに乗って全員で行ったり、季節折々の行事を企画している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望に応じ各自がお金を所持できるように支援している。買い物や外食時、本人が欲しい物を選んだり食べたりできるように支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者さまの希望に応じ本人が自ら電話をかけ、家族や友人と話す事はできる。希望される方には年賀状を用意したり手紙を書く支援もしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは中庭に面し間取りも広く明るい作りである。天井も高く圧迫感を感じない。ユニットを仕切っているドアを開放すると空間が広く感じゆったりできる雰囲気である。また玄関やリビングには季節の花を飾り季節感を味わいBGMが流れ居心地良く過ごせるように配慮している。中庭には季節ごとに花が咲く木を植えている	隣り合ったホールを中心にして、左右対称にユニットが配置された平屋建ての造りである。両ホールをつなげると100平米超になり、開放感と活気が感じられる。吹き抜けの天井に沿った木の梁がぬくもりとゆとりを感じさせ、風通しも良い。4人掛けのダイニングテーブルが複数あり、気の合う人同士で個々にくつろぐことができる。敷地も広く自然に囲まれた環境下である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに食事時のテーブル、ソファや畳を設置しているので、行きたいところで自由に使用できるように工夫している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・ダンスは施設が準備している。入居者様が使い慣れたテーブルや椅子、仏壇など置かれ、レクリエーションで作った作品や写真、アルバムなどで家族の協力のもとレイアウトした個性が出ている居室になっている	7畳程度と広めの居室は、ホールから伸びる2本の廊下の南北に配置されている。フローリング調のビニルマットで、清掃もよく行き届いており清潔にされている。施設内の雰囲気合った木調ベッド、ダンスが備え付けられており、季節物の入れ替えは職員が家族と協力して片付けている。テレビや椅子などの持ち込みも自由だが、ホールで過ごす方が多く、シンプルな部屋作りがなされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視力がやや悪い方も分かる字でトイレや居室(家族に名前を出す事了解していただき)をアピールしている。壁には持ちやすい大きさの手すりがついているので足取りが少々悪い方も、手すりを握り進むことができる。レクリエーション時は個人の趣味を生かしたものを取り入れ一緒に取り組むなど行っている。センサーマットを使用し安全に気を配る方も居られる		